



Luc MONTAGNIER

リュック・モンタニエ

2008年度ノーベル生理学・医学賞受賞者

リュック・モンタニエ教授はパリ大学で医学と生物学を専攻・卒業。キャリアの大半はフランスの2つの著名な研究機関、キュリー研究所とパスツール研究所で築かれた。1983年、自ら率いた研究チームで、ヒト免疫不全ウイルスHIV-1を単離し、そのウイルスがエイズの病原因子であることを世界で始めて証明した。1985年にはエイズの2つ目のウイルスHIV-2を西アフリカの患者から単離した。

HIVに感染した患者の白血球の大部分はアポトーシス、つまりプログラムされた細胞死、によって死ぬ傾向があり、おそらく共感染に結びついて患者の体内で生じる酸化ストレスがその原因であると、初めて明らかにしたのがモンタニエ教授のラボラトリである。

新しいタイプの抗HIVワクチンの開発に参加するほか、最近では、革新的な技術を利用して癌や神経変性疾患、関節疾患に関係する微生物やウイルス因子の診断・治療に関する研究を進めている。予防医学の確固たる擁護者として、特に高齢者の就業可能期間を伸ばすことに関心を持っている。

一方、開発途上国において、現代医学や予防医学に関する知識の取得及び同医学の普及を目指す支援活動に深く関わっている。また世界エイズ研究予防財団の会長として、コートジボワールとカメルーンに、エイズの予防や治療、研究、感染者診断のためのセンターを設立した。

2005年から、Nanectis Biotechnologies 株式会社(パリ)の共同設立者兼社長として、水性媒体中で細菌や病原菌のDNAによって誘導された電磁波を検出する新しい生物物理学的技術を開発した。慢性変性疾患の患者の血液検査に応用できる。HIV感染で抗レトロウイルス治療を受けている患者の血液中のウイルス量が検出限界以下でも、この技術を使えばHIVのDNAを検出できることが明らかにされた。この発見はHIV感染撲滅を目指す新しい治療開発への道を拓くものである。

ガン医学ローゼン賞(1971年)、ガリアン賞(1985年)、コルバー賞(1986年)、ルイ・ジャンテ賞(1986年)、アルバート・ラスカー臨床医学研究賞(1986年)、ガードナー国際賞(1987年)、サンテ賞(1987年)、日本国際賞(1987年)、ファイサル国王賞(1993年)、アムステルダム財団賞(1994)、ウォーレン・アルバート賞(1998年)、アストゥリアス皇太子賞(2000年)、(アメリカ)国立著名発明家会館殿堂入り(2004年)、等、受賞多数。
フランス政府より、国家功労勲章コマンドゥール(1986年)及びレジオン・ドヌール勲章オフィシエ(2009)を受勲。

2008年、HIV発見を評価され、フランソワーズ・バレ＝シヌシと共にノーベル生理学・医学賞を受賞。

著書は350以上(共著を含む)、特許数は750以上を数える。



Gérard SALAMA

ジェラルール・サラマ



ジェラルール・サラマ博士は産婦人科医で、現在、パリのアメリカンホスピタルに勤務している。

1973年パリ大学医学部卒、産婦人科専攻。国立保健衛生研究所 (INSERM) 伝染病科で主任研究員を務めた。

1980年からパリで婦人科と女性外科の医療に従事、不妊症と更年期障害も扱う。思春期初期から高齢にいたるまで、女性の健康に係わる全ての問題の治療に携っている。現在までに、フランス国内外で8000人の新生児を取り上げる一方、フランスだけでなく他の国々でも外科手術を執刀している。

婦人科医としての経験を予防医学に生かしながら、独創的そして情熱的に、老化に関する全ての問題に取り組んでいる。うまく老いるための新しい科学的・医学的発見を臆すことなく支持し、予防医学と予測医学に対する賛意を明言している。国際抗老化医学研究協会 (AIRMCV) の会長でもある。

ロシア連邦国際医学アカデミー会員 (2011年)

2006年、ジャック・シラク大統領よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受勲

多数の著作が数ヶ国語に翻訳されている。最新の著書は「抗老化医学、未来の医学」(2010年刊)

フランス国内外のメディア(テレビ、ラジオ、新聞等)に多数登場